



2020年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年10月30日

上場会社名 神奈川中央交通株式会社
 コード番号 9081 URL <http://www.kanachu.co.jp/>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 堀 康紀
 問合せ先責任者 (役職名) 総務部長 (氏名) 福原 賢浩
 四半期報告書提出予定日 2019年11月13日 配当支払開始予定日 2019年11月21日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 0463- 22- 8800

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	56,773	0.7	3,843	7.6	3,893	9.4	2,473	9.4
2019年3月期第2四半期	57,157	0.3	4,158	1.3	4,297	3.8	2,729	1.2

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 2,237百万円 (50.2%) 2019年3月期第2四半期 4,488百万円 (43.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	201.56	
2019年3月期第2四半期	221.65	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	152,268	62,021	37.7
2019年3月期	153,176	60,064	36.3

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 57,457百万円 2019年3月期 55,630百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		17.50		22.50	40.00
2020年3月期		20.00			
2020年3月期(予想)				20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	114,900	0.1	5,760	12.8	5,730	15.6	3,240	20.8	264.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期2Q	12,600,000 株	2019年3月期	12,600,000 株
期末自己株式数	2020年3月期2Q	328,012 株	2019年3月期	327,981 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期2Q	12,272,010 株	2019年3月期2Q	12,315,061 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、堅調に推移する企業収益を背景に、輸出や生産に弱さがあるものの設備投資が緩やかに増加し、個人消費は雇用・所得環境の改善が続かなかで持ち直しの動きがみられるなど緩やかな回復傾向が続きました。一方、米中を中心とした通商問題の影響などにより海外経済の一部で減速の動きが続いており、先行き不透明な状況で推移しています。

このような状況のもと、当社グループ各社は、各部門において積極的な営業施策を図ってまいりましたが、当第2四半期連結累計期間においては、乗用事業の収入の減少などにより、売上高は56,773百万円（前年同期比0.7%減）、営業利益は3,843百万円（前年同期比7.6%減）、経常利益は3,893百万円（前年同期比9.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,473百万円（前年同期比9.4%減）となりました。

セグメントの業績の概況は、次のとおりであります。

(一般旅客自動車運送事業)

乗合事業においては、4月に慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの学生数の増加に対応するため、湘南台駅～慶応大学間で輸送力の増強を行うとともに、神奈川中央交通東(株)にて川崎市交通局より新たに1系統の受託を開始するなどの増収策を図りました。また、実証運行を行っている小山田桜台～唐木田駅東～多摩南部地域病院間において、8月に利用実態に合わせてワゴン車から小型バスに変更することにより輸送力を強化し、利便性の向上に努めたものの、東京工芸大学芸術学部に移転に伴い通学利用者が減少したことや養護学校など一部の特定契約輸送が契約満了となったことなどにより減収となりました。

貸切事業においては、神奈中観光(株)にて、積極的な営業活動に努めたことで旅行エージェントからの受注が増加したことなどにより稼働率が向上し増収となりました。

乗用事業においては、高齢の方や車椅子ご利用の方など、さまざまなお客さまが利用しやすいユニバーサルデザインの次世代型タクシー「JPN TAXI（ジャパンタクシー）」の導入を推進しました。また、スマートフォンアプリなどによる無線配車サービスの利用促進に努めたほか、9月には決済機能付きタブレット端末を全車両に設置するなど利便性の向上を図ったものの、乗務員不足による稼働減が影響し減収となりました。

以上の結果、一般旅客自動車運送事業全体の売上高は29,868百万円（前年同期比1.7%減）、営業利益は1,830百万円（前年同期比18.3%減）となりました。

(不動産事業)

分譲事業においては、前期に引き続き、デベロッパーとのマンション共同事業として、伊勢原市桜台にて「リーフィアレジデンス伊勢原」および藤沢市羽鳥にて「プレミスト湘南辻堂」の販売を進めました。さらに、神奈川県内のほか、東京都内の物件を手掛けるなど広く分譲開発を継続し、茅ヶ崎市室田の戸建分譲および茅ヶ崎市菱沼の宅地分譲を進めたことなどにより増収となりました。

賃貸事業においては、高稼働率の維持に努め、前期に新たに賃貸を開始した「平塚市浅間町貸店舗」および新規テナントが入居した「港南中央ビル」などの賃貸収入が通期寄与したことなどにより増収となりました。

以上の結果、不動産事業全体の売上高は3,006百万円（前年同期比9.9%増）、営業利益は1,331百万円（前年同期比10.9%増）となりました。

(自動車販売事業)

自動車販売事業においては、神奈中相模ヤナセ(株)にて、フルモデルチェンジした「Aクラス」や「Bクラス」などの新車販売が順調に推移しましたが、高価格帯の車両販売が減少したことなどにより減収となりました。また、神奈川三菱ふそう自動車販売(株)にて、小型トラック「キャンター」の販売が順調に推移するとともに、整備部門において積極的な営業活動により受注が増加したものの、大型バスの販売台数が減少したことなどにより減収となりました。

以上の結果、自動車販売事業全体の売上高は13,698百万円（前年同期比6.7%減）、営業利益は122百万円（前年同期比22.5%減）となりました。

(その他の事業)

流通事業においては、(株)神奈中商事にて、バスICカードシステム機器の代替を受注し、部品販売が増加したことなどにより増収となりました。

ビル管理事業においては、横浜ビルシステム(株)にて、4月より新たに金融機関の事務処理業務の一部を受託したほか、設備更新工事を受注したことなどにより増収となりました。

資源活生事業においては、(株)アドベルにて、リサイクル品の品質向上を図るため、前期にペットボトルリサイクル設備を更新し、販売単価の上昇効果を得られたことなどにより増収となりました。

商用車架装事業においては、横浜車輛工業(株)にて、トラックター架装の受注が順調に推移しましたが、前期に大手運送会社からコンテナ架装を大口受注した反動減などにより減収となりました。

レジャー・スポーツ事業においては、(株)神奈中スポーツデザインにて、4月より子ども向けスポーツスクールを核とした小規模運動施設「神奈中スポーツコンボBB茅ヶ崎」を開業したほか、9月に「フィットネスクラブライフティック平塚」にて、カラーゲン岩盤浴施設を導入するなど施設をリニューアルし、会員の獲得に向けた施策を推

進しましたが、新たな競合施設の出店に伴う競争激化の影響などにより減収となりました。

飲食・娯楽事業においては、ドーナツ店やドトールコーヒー店舗にてタピオカドリンクなど新商品の売上が順調に推移しました。また、前期に新たなブランド展開を始めたラーメン店の2号店として7月にオープンした「北海道らーめん麺処うたり相模大野店」が順調に推移したものの、T S U T A Y A店舗における売上不振や閉店の影響などにより減収となりました。

ホテル事業においては、宿泊部門にて旅行エージェントへ積極的な営業活動を行い、訪日外国人旅行者など宿泊客が増加しましたが、前期にケーキショップ「ブルーベリー」が閉店した影響などにより減収となりました。

以上の結果、その他の事業全体の売上高は15,656百万円（前年同期比4.6%増）、営業利益は687百万円（前年同期比12.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の変動状況

総資産は、投資有価証券時価評価額の減少などにより、前期末に比べて907百万円減少し、152,268百万円となりました。

負債は、借入金の返済が進んだことなどにより、前期末に比べて2,865百万円減少し、90,246百万円となりました。

また、純資産は、利益剰余金が増加したことなどにより、前期末に比べて1,957百万円増加し、62,021百万円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益3,790百万円に減価償却費などを加減した結果、6,891百万円の資金収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出2,862百万円などにより、2,818百万円の資金支出となりました。

また、財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済などにより、4,059百万円の資金支出となりました。

これらの結果、現金及び現金同等物の当第2四半期末残高は、前連結会計年度末に比べて12百万円増加し、2,808百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期通期連結業績予想につきましては、概ね計画通りに推移していることから、現時点において2019年4月25日発表の数値から修正しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,995	3,008
受取手形及び売掛金	9,824	9,447
商品及び製品	6,485	6,660
仕掛品	9	30
原材料及び貯蔵品	474	466
その他	2,550	2,434
貸倒引当金	△83	△69
流動資産合計	22,256	21,978
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	84,004	84,180
車両運搬具	44,314	43,798
土地	60,796	61,624
その他	20,374	21,393
減価償却累計額	△102,376	△103,931
有形固定資産合計	107,113	107,065
無形固定資産	1,189	1,087
投資その他の資産		
投資有価証券	18,520	17,985
その他	4,164	4,164
貸倒引当金	△68	△12
投資その他の資産合計	22,616	22,137
固定資産合計	130,920	130,290
資産合計	153,176	152,268
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,548	6,694
短期借入金	18,990	22,066
1年内償還予定の社債	5,000	5,000
未払法人税等	1,097	1,247
賞与引当金	2,296	2,254
その他	13,019	14,298
流動負債合計	47,952	51,561
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	12,989	6,773
役員退職慰労引当金	25	24
退職給付に係る負債	4,391	4,327
その他	17,753	17,559
固定負債合計	45,159	38,685
負債合計	93,112	90,246

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,160	3,160
資本剰余金	689	689
利益剰余金	46,682	48,879
自己株式	△936	△937
株主資本合計	49,594	51,791
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,035	5,672
繰延ヘッジ損益	15	—
退職給付に係る調整累計額	△15	△6
その他の包括利益累計額合計	6,035	5,665
非支配株主持分	4,433	4,564
純資産合計	60,064	62,021
負債純資産合計	153,176	152,268

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高		
一般旅客自動車運送事業営業収益	30,258	29,756
不動産事業売上高	2,725	3,001
その他の事業売上高	24,173	24,015
売上高合計	57,157	56,773
売上原価		
一般旅客自動車運送事業運送費	25,097	24,852
不動産事業売上原価	1,116	1,239
その他の事業売上原価	19,452	19,470
売上原価合計	45,667	45,562
売上総利益	11,490	11,211
販売費及び一般管理費		
販売費	4,682	4,771
一般管理費	2,649	2,596
販売費及び一般管理費合計	7,331	7,367
営業利益	4,158	3,843
営業外収益		
受取配当金	154	167
事故賠償費精算差益	115	—
その他	107	89
営業外収益合計	377	257
営業外費用		
支払利息	174	160
その他	64	46
営業外費用合計	239	207
経常利益	4,297	3,893
特別利益		
固定資産売却益	9	34
補助金収入	110	48
その他	1	—
特別利益合計	121	83
特別損失		
固定資産除却損	128	119
固定資産圧縮損	107	47
その他	22	19
特別損失合計	258	185
税金等調整前四半期純利益	4,160	3,790
法人税、住民税及び事業税	1,204	1,227
法人税等調整額	98	△37
法人税等合計	1,302	1,190
四半期純利益	2,858	2,600
非支配株主に帰属する四半期純利益	128	127
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,729	2,473

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益	2,858	2,600
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,616	△359
繰延ヘッジ損益	15	△15
退職給付に係る調整額	△1	11
その他の包括利益合計	1,630	△363
四半期包括利益	4,488	2,237
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,340	2,103
非支配株主に係る四半期包括利益	148	133

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,160	3,790
減価償却費	3,163	3,276
賞与引当金の増減額(△は減少)	△88	△42
貸倒引当金の増減額(△は減少)	13	△70
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△140	△45
受取利息及び受取配当金	△155	△168
支払利息	174	160
固定資産圧縮損	107	47
固定資産除売却損益(△は益)	20	27
売上債権の増減額(△は増加)	47	373
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,176	△190
仕入債務の増減額(△は減少)	△885	△827
未払消費税等の増減額(△は減少)	△34	50
預り保証金の増減額(△は減少)	△62	△85
その他	2,404	1,643
小計	7,548	7,939
利息及び配当金の受取額	164	177
利息の支払額	△155	△143
法人税等の支払額	△946	△1,083
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,610	6,891
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△100	△100
定期預金の払戻による収入	100	100
固定資産の取得による支出	△890	△2,862
固定資産の売却による収入	59	49
投資有価証券の取得による支出	△28	△1
短期貸付けによる支出	—	△3
短期貸付金の回収による収入	0	—
長期貸付けによる支出	△0	△0
長期貸付金の回収による収入	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△858	△2,818
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△3,059	△1,571
リース債務の返済による支出	△415	△641
長期借入れによる収入	800	—
長期借入金の返済による支出	△2,500	△1,567
自己株式の取得による支出	△226	△0
配当金の支払額	△215	△275
非支配株主への配当金の支払額	△3	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,619	△4,059
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	132	12
現金及び現金同等物の期首残高	2,468	2,795
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,600	2,808

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他の 事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	一般旅客 自動車 運送事業	不動産事業	自動車 販売事業				
売上高							
外部顧客への売上高	30,258	2,725	13,232	10,941	57,157	—	57,157
セグメント間の内部 売上高又は振替高	117	9	1,443	4,028	5,599	△5,599	—
計	30,375	2,734	14,676	14,970	62,757	△5,599	57,157
セグメント利益	2,241	1,200	158	609	4,210	△51	4,158

(注)「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、流通事業、飲食・娯楽事業、ホテル事業等を含んでおります。

II 当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他の 事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	一般旅客 自動車 運送事業	不動産事業	自動車 販売事業				
売上高							
外部顧客への売上高	29,756	3,001	13,241	10,774	56,773	—	56,773
セグメント間の内部 売上高又は振替高	112	5	457	4,881	5,456	△5,456	—
計	29,868	3,006	13,698	15,656	62,230	△5,456	56,773
セグメント利益	1,830	1,331	122	687	3,972	△128	3,843

(注)「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、流通事業、飲食・娯楽事業、ホテル事業等を含んでおります。